

## インフラメンテナンス国民会議（仮称）設立に向けた意見交換会 メモ

H.28.4.22（金）16時00～18時

国交省 国土交通大臣政務官、総合政策局公共事業企画調整課 調整官  
事業総括調整官、大臣官房公共事業調査室長、交流連携事業調整官  
民間企業、団体 18社

ERI ホールディングス㈱、大林組、共和電業、西松建設、パナソニック  
NEC、日本ファシリティマネジメント協会、河川財団、日本コンクリート防  
食協会、阪神高速技術 建設コンサルタント協会 他

- 1、開会 事務局挨拶から、続いて宮内政務官からこの会議の主旨説明  
インフラの維持管理について政治としても真剣に捕らえ、各省庁にトップダウンしている。内閣としての政務官会議で「インフラ老朽化対策委員会」各省庁横断の連携をとり、役所にトップダウンしているところ。どんどん続けるという考えを持っていることを理解してほしい。  
国民会議は政治主導で民間の知恵の結集で進めて行きたい。  
資料の戦略1から5までの内容で、海外展開では、官と民間が一緒にPRしていく。官と民が同じ立場でこの会議のあり方も強調された。どんどん自由な意見を話して頂きたいのこと。
- 2、議事 1) 宮内政務官との意見交換 20分程度  
次の所用があるため、先に意見交換を求めた。  
数社が自社のインフラ技術のPRで、この会議についての内容は少なかった。  
政務官から、何でも自由にこの会議では意見を言っていただきたい。その中から役所がすべき内容は整理して対応していく考え。
- 2) インフラのメンテナンスを取り巻く状況と「インフラメンテナウンス国民会議の創設（青写真）」について佐藤事業総括調整官から説明があった。
- 3) 意見交換 約1時間程度  
各社がこの国民会議に期待したいことと、課題、疑問、質問を意見した、意見に対して意見交換まではなかった。
- ・建設会社 異業種をまとめてコーディネーターの立場でビジネス
  - ・保険会社 民間が管理者としてのリスクに対してフォローしていく
  - ・その他 管理者の現場と温度差を埋めなければならない。  
予算が「ある、ない」の問題が必ず発生する。現在はシーズの活用の理解が少ない

地域特色の維持管理の情報をもっと聞き取りたい。  
自治体の格差がある。

ガイアートT・Kとしての私の意見は

アンケート資料に示した活動に対しての期待について意見した

- ・ この会議を伴走コンサルタントと言うならば、最前線の担い手を多く参加させ、仲間をつくる必要がある。目的をお互い理解して、まず、現状の問題点を洗い出し、トップとボトムとのギャップを埋める必要。どのような、例えば ICT 技術が助けになるかなど、シーズがニーズにマッチできる考えがそこで初めて浸透すると思う。そのためにも、フォーラムのあり方と進め方が重要。どの程度の頻度で勉強会。部会等を運営していくか。かなりのパワーと覚悟がいると思う。

- 3、感想
- 今回の政務官出席の中での目的と行動計画を示されたので、前回までの「どうなのかな、本気なのかな」という思いは参加者において、多少は消えたのかと思う。担い手の私としては、今回の会議内容でかなり期待できていると思っています。どういう会議体の組織・チームを作り、身近にどんどん活動するかだと思っています。民間側の参加者の時間を投資する覚悟と志がなければ、ただ得意の技術を売ろうという従来の待ち型の考え方と、目の前の利を追求するならば、難しいと思います。「国民へのメンテナンスの理念の普及を図る」このことは市民参加の合意形成の考え方も参加者の意識に必要と思います。